アルツハイマー型痴呆老人O氏に対する音楽療法
— 精神症状と行動異常の変化 —

〇宝輪 清美（特別養護老人ホーム ヴィラ山科）
西沼 啓治（特別養護老人ホーム 加茂の里）

【対象者及び目標】
O氏は、当施設入所中の女性、95歳で平成14年3月に入所され、アルツハイマー型痴呆（以下、ATD）の臨床病期は第2期に相当する。入所当初、徘徊、不穏、興奮、暴力、妄想などの行動異常や精神症状がみられた。今回の事例において、音楽療法を通じ、精神症状や行動異常が改善し、施設内生活の中の順応性が高められたことを目標とした。

【方 法】
平成14年4月よりマン・ツー・マンでの個別音楽療法を週1回40分、計14回実施した。プログラムの形態は、①クラシック曲を流しながら四肢体幹のストレッチ及び見当識訓練を行い、②季節の曲で唱歌・童話を取り入れ、歌唱・鈴・タンパリンを使用した器楽奏でのリズムトレーニング・歌唱しながら上下肢の運動と歩行訓練・O氏の家族、故郷の回想法を行い、③クールダウンでハンドベルを使用した「夕焼け小唄」を歌唱した。
評価方法は、①療育音楽面：音楽療法スケール8項目（関心度・歌唱・リズム・会話・楽器・楽しみ方・表情・集中力）②痴呆度：N式老年者用精神状態尺度（NM-S）・N式老年者用日常生活動作能力評価尺度（N-ADL）③精神症状・行動異常面：ATDにおける行動関連スケール（BEHAVE-AD）25項目（妄想・幻覚・活動性の障害・攻撃性・昼夜リズム障害・感情障害・不安・恐怖症）とした。

【経過および結果】
①療育音楽面：関心度・会話・楽しみ方は、高得点で変化なく、又、リズム・楽器では、初期では機嫌が良くないと楽器を途中で投げたり、リズムの指示が理解されなかったりしたが、最終時には軽減し、スケールで改善がみられた。
②痴呆度：NM-Sでは、関心・意欲・交流、会話、記録・記憶で3項目とも1点ずつ改善した。初期時はレクレーションを拒否したり、会話では一方的に怒りながら話し、相手の話を理解して答えることが少なかったが、最終時は楽道・章行・行事にも楽しく参加され、会話も穏やかな表情で話されることが増えてきた。N-ADLでは、入浴・授衣で＋2点、摂食で＋2点と改善した。
③精神症状・行動異常面：初期時20点（妄想、偏執、暴言、暴力等の攻撃性・昼夜リズムの障害）で、自室を置いて隣室の部屋に入れて衣類を引き出し、注意することを投げたり、大きな音を立てたりし、又、自分で前で車椅子に座っている人がいると、手で払いのけたり、蹴ったりした。夜間も覚醒して、独語もみられた。最終時はこのような症状は特にみられず、落ち着かれて0点と改善した。

【考 索】
音楽療法を行うにあたり、O氏が不穏なく機嫌の悪くない時、および他者が介入したり同席したりして集中力が減退しないように心理的、環境的要因を考慮し、又、O氏の好みの曲を選択して取り組んだことが療育音楽面、痴呆度、精神症状・行動異常面の改善に結びついたと考えられる。歌唱する前に歌詞を音読、意味理解、呼称することも取り入れ認知機能を促進するよう働きかけ、好みの曲で関心・意欲を高め、回想法を取り入れてコミュニケーションを図り、昔のことを思い出したり施設の行事に参加したことなどの近時的な記憶を取り戻して、個別音楽療法と施設で取り組んだ行事の相互的効果も運動遂行能力を含めた認知機能の改善につなげられ、又、非認知機能障害である精神症状・行動異常面の改善につなげられたと考えられる。今後も心理的、環境的要因を含めて、精神症状・行動異常を誘発しないような介護のあり方、アプローチの進め方で音楽療法を継続し、認知機能と非認知機能の改善の関連性も追及してゆき、O氏の生活の質の向上のために取り組みたい。